颯爽と

生徒指導部から（２・３年生へ）
＝＝　未来の花を咲かせるために　＝＝
２０２６年１１月１１日

２大行事の大運動会、鹿工祭おつかれさまでした。満足いく結果が掴めましたか。達成感は味わえましたか。競技やコンテストでは順位はつきものですが、本当に大切なことは、決められたルールの中で、どんな過程を経て、その順位を勝ち得たか。これ以上できないというほどの努力、練習を重ねての負けなら、その負けから学ぶことも多く、その後の自分を成長させてくれる糧となります。逆に、大した努力もなしに手に入れた勝ちは、一歩間違えばおごりにしかなりません。勝ちや負け、その結果をどう感じ、何を学ぶかが大切なことだと思います。
来週は期末テスト。どんな結果を手に入れようとして、どう取り組みますか。

幸福のはなし　その２

ブリジット・ラベ
ミシェル・ピュエシュ　共著　「うそとホント」より

「あんなに幸福だったのに」

太郎は５年間貯金をして、やっとあこがれの車を買った。

その車が届いたので、さっそくドライブに出かけた。
待ちに待った日だ。雲ひとつない青空の下を、窓を開け放し、大声で歌いながら、高速道路を飛ばす。
とても幸せな気分だった。夜は妻を乗せて、あたりをひとまわりしてみよう。

夕方、家へ帰ると、隣の人が外に出ているのに気づいた。
「ちょうどいい、この新しい車を見せてやろう。ちょっと運転させてやってもいいな。」



太郎はこのとても感じのいいおとなりさんと、ふだんから仲良くしていた。
「やあ、太郎、かっこいい車じゃないか。すごいな」と彼は褒めてくれる。
「とうとう手に入れたんだね、うれしいだろう」

するとそこに、近所の別の友人が大声で叫びながら走ってきた。小さな紙切れを振りかざしている。
「おーい、大変なことになった、聞いてくれよ。宝くじが当たっちゃったんだ、
こんなことあり得ない、夢みたいだ、信じられないよ。」
「何だって？いったいどうしたんだよ」と太郎は聞いた。
「一億だぞ、一億。フェラーリだ、フェラーリを買うぞ。」　彼はすっかり興奮している。

太郎はフェラーリに乗っている友人の姿を想像した。
太郎は、そいつは素晴らしい、みんなでパーティを開こうと提案した。
でも、その夜は変な気持ちになり、妻を誘って新しい車でドライブに行くことなど、
すっかり忘れてしまっていた。一瞬にして太郎の幸福は台無しになってしまった。
友人の車のことを思うと、それまでのような気分でいられなくなったのだ。



でも、太郎に変化があったわけじゃない。
夢は現実になったし、車はちゃんと車庫の中にあるし、やっぱりそれはきれいだし、誰かに盗まれたわけでもない。友人がフェラーリを買っても、何も変わらないのだから、太郎はずっと幸せな気分でいたっていいはずだ。

幸福なはずなのに、誰かと比べたとたん、急に幸福感が薄れてしまうのは、おかしなことだ。
幸せの正体って、何なのだろう。
幸せって、形ではなく「心で感じる」もの、「自分の心で感じる」もの

自分を高めるモチベーションとして、相手に勝ちたいと挑むことは必要だ。
でも、幸せかどうかは人と比べるものではないはずだ。

「そうさ僕らは　世界に一つだけの花　一人ひとり違う種を持つ
その花を咲かせることだけに　一生懸命になればいい」

いつか自分が「幸せ」を感じられるように。今を頑張ろう。

およそ人は、
一能一芸なきものなし、
その長所を採択するは、
人君の任なり。

校歌に謳われている名君、島津斉彬公のことば

「人は皆、得意なこと、素晴らしいものをもっている。それを認め、ふさわしい役割を与えることは君主の務めである。」
クラスの中にもいろいろな人がいます。お互いの「一能一芸」を認め合って、全員が輝いて過ごせる学級を創ろう。